

「松本市文化芸術振興審議会」第4回審議会の議事概要

- 1 日時 平成27年10月9日（金） 9時30分から12時まで
- 2 場所 大手会議室A（松本市役所大手事務所6階）
- 3 出席者 （委員） 笹本会長、花輪副会長、小松委員、宮嶋委員、瀧沢委員、倉澤委員、辻本委員、佐久間委員
（事務局）久保田文化振興課長、原文化振興課課長補佐、村井文化振興課係長、小林主査

4 議事

（1）協議事項

改定する松本市文化芸術振興基本方針の各論について（その1）の続き

【事務局】

- 第4回審議委員会を開催する。

【委員】

- ◎ 人数に達しているので会議は成立。公開にて行う。まず、資料5ページ「文化芸術の振興に関するその他重要な事項の論点」を扱う。

——事務局説明——

【委員】

- 全体にカタカナが多すぎると思う。市民に読んでもらうのだったらもう少し工夫をした文章にしたい。また「松本城や上高地を中心とした観光」とあるが、合併後の松本市全体の文化と観光というものが見えてこない。その後には書かれている「気づきの発想のもとに発信する」という気づきは誰の気づきなのか主語がわからない。
駅前「3ガクの街」と書いてあるがその言葉との関連性が見えない。上高地なら「3ガクの岳」であるというように説明して特長を出していくといい。
多文化という部分では信州大学がキーになると思う。留学生がたくさん来ている。海外から来る観光客と日常的に松本にいる外国人の両方向で考えていくといい。
- 「各地の物産」と書いてあるが松本の特産品は何なのか。外に向かって発信するよりも内に向けての強化が大事。これからの子どもたちに親の世代が教えられるようなことをしていけば、来た人にも伝えられるし次の世代にも伝えられる。
- 松本の物産、代表する食べものは何か。食育が大事だというときに農業をやる人をどう育てているか。松本らしさを唱えたらまず松本の事をきちんとやる。気づきの主語は市民である。市民ひとりひとりが自分の住んでいるところを誇りに思えて、こんな名産があると言えるようになること。
- カタカナは、例えば「ホテル」「ベッド」を日本語に直してその方がわかりやすいかと言えばそうではない。わかりやすくするということは大事だが、カタカナを省いてわか

りやすくなるかは疑問だ。言葉というのは話す人の場によって共有されるものなので、それもまた文化である。

文章の中で文化、観光、産業、連携、振興という言葉ひとつひとつはわかるが、「観光・産業との連携・振興」と言った時にその概念自体がわからない。交流人口という言葉もよくわからない。消費は交流人口に繋がっているのかどうか、意味としてもっと奥底にあるのではないか。具体的な事を書くレベルに至っていないのではないか。観光・産業というが、実際に何も無いところでどう連携するのか。

- 振興策の役割が最終的に明記されていない。文化振興策はすべてのトップだと思う。道路造って遺跡があったら道路は開けられない。仮に市の観光行政がこうなっているというものがあっても我々の言うことでそちらを変えてもらえるのか。立場が明記されていないので、私たちがやっておくことはきちんと筋を通しておくことだけでいいと思う。筋を通してさえおけば、どう使うかは市の側でやってくれるだろう。その関係は改めて文化振興課から説明してもらいたい。

- この論点のところ「芸術文化の盛んな土壌が、新たな産業連関や交流を生み出すという発想での取組み、アイデア」を論議しましょうということになっているが、具体的にイメージが湧かない。ひとつひとつの目的、なぜこれをやる必要があるのか核となるものが見えない。この書き方は「現状はこうで、それによって方針案はこうで、それに対してこういうことをやる」という形になっているが、課題は何なのか。全部飛ばしてこういう案がありますというだけではぼんやりしてしまう。特に「多文化・異文化理解と受け入れ態勢の整備」はなぜ必要なのか。

全体的に外に向けての発信に終始しているが、市民の意識を高めるためにこういうことをやっているんだというような、内向きの発信が意識として必要であると思う。

- 最初の段階で、市のいいところと悪いところを挙げた。それは全体認識である。それを前提にして戦略性に繋がっていく。
- 外向きの発信に一生懸命だが市民主体になっていない。市民が普段の暮らしの中でそういったものを取り入れていない。観光と産業ということで言うと、京都は本物の工房を見学するツアーがある。祇園コーナーというものもあり、浄瑠璃や祇園などの伝統芸能の映像が見られ、外国人がたくさん来る。松本でこういうツアーをやるとしたら松本市美術館と外人に人気の浮世絵博物館と民芸館。

芸術家に聞くと工房と販路が欲しいと言う。それを活かしている店もいくつかある。店舗の庭で器を販売していて、そこに近くの養護学校の生徒たちが作った器も置いてあったり、店内で使っている器を作っている工房のマップがあったり。トータル的ビジョンを持ち、本来のコンセプトをしっかりと作ってそれに沿ってやっていくことが大事。

松本はコンテンツはたくさんあるので活かす方法を考えていけば。いくらイベントやって外から認められても、市民が2割しかいない現状は大きな問題。

- 市民を主体に、市民に対して何をやっていくか。その上で外部的には何をやっていく

のか考えていく。まだ知られていない新しいものを見つけ出すのが、本当は文化振興策の重要な部分であって、それを気づいてもらうにはどうすればいいのか。市街地だけでなくもっと松本全体の色を出して、情報を共有して付け加えていく。

- 内部外部でいくと、産業との関連になるが芸術文化に関わる人にお金がまわる仕組みがないと参加は得られないだろう。OMFについて言えば、チケットが高額で、買える値段ではないので、最初から関係ないというマインドがあるように感じる。わかりやすさ・外部の目というところと言うと、施策の展開案に「文化・観光交流都市協定を結ぶ都市を中心とした文化芸術による地域間交流と展開」というところがある。具体的に決まっているようなら記載して、連携を取りながら外部の目も入りつつ進めていけるといい。
- 信州大学の地域戦略センターでは多くの人が地域興しに関われるように講座を開いている。その中に「芸術文化の未来学」というものもある。芸術をやっている人はお金だけで動いているわけではない。経済的効果の有無で施策をやると経済的効果でしか動かなくなる。
- 何がやりたいか具体的に載せた方が市民に伝わる。「松本の魅力の世界への発信」も、松本らしさとは何かを具体的な言葉で出した方がいい。山雅が出ているが、スポーツはわかりやすいので、そういう繋がり出しやすい。山雅であれば例えば緑をポイントに置いて文化的なつながりというもので展開していくといいと思う。
- 生活する中で文化に関係していないことはない。お祭りも買い物もすべて繋がっている。それらの文化全てをひっくるめていかないといけないので振興策は難しい。他県の人から見て松本はいいところだという評価は、文化振興がかなり効果を奏していると思う。松本らしさを出していくことは大事だ。中町通りは観光客相手だが人通りが多い。裏町は夜も昼も人通りがない。裏町にはしご横丁があるのでそこをクラフトの街にしたらいと思う。
- 昔賑わっていたときが正常で、今賑わっていないのが異常なのではなく、人口の減少に伴い消費人口も減少している。昔の一番良かった時代が本来あるべき姿でそこに戻そうとする考えには無理があり、発想を変えて今を考えていかなければならない。
- 優先順位がわからない。ロゲイニングも初めて聞いたが面白いと思う。具体的な施策でロゲイニングを押ししていくのならそれを浸透させていくように行動すればいい。松本らしいものをよりブラッシュアップして強化するのがいい。OMFもクラフトフェアも外からの人は来ているので、今後は市民が楽しんで参加できることを考えるといい。それを具体的にここに書く。市として何が強くて何が弱いのか検証していく必要がある。
- せっかくここまでやってきて外では認められてきた。あとは中で認められればいい。
- 現状の取組みに「同じ関心を持った者同士の文化交流を推進し」とあるが、これは大きな間違い。連携していけるのは同じ目的を持った人たちであり、同じ関心を持った人たちが集まっても余計に分散してしまう。ビジョンを共有できる人たちが連携できる。そういう交流を増やしていかなければならないし、同じ方向性を持ってもらうことは、

連携とか協働を考える時に第一に必要なこと。

裏町のはしご横丁に関しては、そこで展示したい人がいない。空いているということには理由がある。経済的にも成り立たないし使いたい雰囲気もない。理由を無視していたらいいものはできてこない。この計画は市民全体だが一番使う人たちは誰なのか。自分だったらこうしたいと感じてくれる流れになるといい。

大局的な計画のはずがとても細かいロゲイニングや里山文化の体験コンテンツはむしろ具体的すぎて、これをやるとなると交流イベントや色々やって、やりまただけで中身がない結果になりやすい。その論理をどう崩すか。

回遊性について、回遊性ありきではなく結果的に回遊性になる。単なるお祭りになっちゃいけないから、5年後にこういう状態になるようにやろう。そういう仕掛けになるようにする。

- 市街地でイベントがあると住民は道が混んで迷惑だと思う。文化がなぜ定着しないか。逆に反感を持っている人もたくさんいることを認識していないといけない。ここには年齢構成が入っていないが文化の意識は年齢によっても違ってくる。市民が地元を誇りを持ってれば観光につながっていくと思う。

◎ では次「くらしの文化の振興」について

——事務局説明——

【委員】

- 伝統行事・生活文化を振興するという面では非常にシンプルでわかりやすい。松本に暮らす人たちがちゃんと仕事できて潤って、そこでお祭りというものが生まれて続いってきた。地域において自分で仕事が生み出せる、環境の変化に伴って仕事が生み出せて経済を回せる人材がいるかをちゃんとやっていけば、文化は継承されると思う
- 具体的に何を継承するか。「茶道・華道・書道」とあるがやっている人はどのくらいいるのか。公民館があっても利用していないが公民館活動とは何かという具体的な検証がされていない。継承とは変化をつけていってもいいのか。
- 飯田は各自治体に獅子舞がある。伝統文化をどういう目的でなぜ続けているかを問われても、やっている人たちは答えられないと思う。昔からやっているからという理由だけだ。やる気があれば復活する。大義名分できちんと継承させなければならないというものではないと思う。
- 昔からやっているからというだけでは継承されなくなってきた。これから町が元気でお金があるという時代ではなくなってきた中で、誇りをもってやっていかないといけない。よそ者目線で言うと松本ぼんぼんはいい。昭和にできた新しいお祭りが古い昔の伝統も入れ込んでいる。くらしの文化とは何か。今までの概念を取り払って考えるべき。話す言葉、食べるもの、着ているものすべてが文化である。圧倒的にすべてのひとに関わっているのは日常的に着る洋服であって着物ではない。毎日食べているのは伝統食ではない。それを踏まえてゆったりと構えられる振興策にしたい。

- 御柱は木やりの練習には毎週出るなどかなり厳しく、その地区に住んでいないと御柱を曳けない等しきたりが厳しいが、松本ぼんぼんは誰もが参加できて難しくない。お祭りだがみんなに開かれていてとてもいい。
- お祭りは本来楽しむものではなく神様を祭るものなので厳しい。それが人の都合に合わせて変化してきて楽しむものになってきた。伝統文化は変化していくもので、変化を容認していかなければいけない。松本ぼんぼんもこのままの形で継承されていくとは思っていない。変化をしていかないと形だけが残って形だけを大切にすることになる。
- 松本ぼんぼんは楽しいというだけで何が大事なかわからない。伝統と言われるものは何が大事かを理解できると、継承したいと考えられる。
- 祭りは本来は地域共同体が神様との関係で行うが、これから先のお祭りはいろんな形態がでてくるだろう。かくあるべきという論理と同時に、面白ければいいと思うことだけでもいい。面白いと感じるものは個々人の文化性であり、世代を超えて協力ができる。また、お祭りは町の防災訓練にもなっている。人が横に繋がる。お祭りそのものの目的が問題なのではなく、お祭りがどういう役目を担うかも考えていく。
- 事情や地域によって違うと思うが、ここであえて謳うことにどんな必要があるのか。それぞれにまかせておけばいいとも思う。
- 茶道や華道もすべての人たちが関わっているわけではないが、生け花を観る、お城でお茶をいただくなどの機会があれば一般の人も楽しめる。継承はその世界の人たちに任せておけばいいと思う。
- 公民館活動は本当に盛んなのか。活動と効果を出してもらいたい。もしあまり役にたっていないければそのお金を子どもたちに使ってもいい。
- 公民館ありきではない。公民館の何がよくて、何が入りにくいのかを本質的にやっていったほうがいいと思う。公民館がこれだけあげられるのは、公民館好きという人たちが松本にはたくさんいて、その人たちがちゃんと表現する。今後はそこに検証ができていけばいい。
- 学校サポート事業はどうか。松本市は文化関係者がどのように学校とつながっているのか。子どもたちや地区にどのような形で文化が浸透していくようにやっているか。公民館活動はその人たちの立場の主張。周りが見えていない。
- OMFはよくて公民館は駄目なのかという論議になる。検証方法はわからないが、楽しんでいる人がいるという事実は大事。やっている人は楽しくて外から見ている人は反感を持つという状態を取り払っていくような政策を作っていくこと。それが好きな人がいるということは楽しいものなのだと思うので、他の人も共有できるようにしていけるといい。
- 投入した税金に対してどれだけの効果があるかは問われるべきだと思う。市民が何人行って文化レベルがどれだけ向上したかという指標であればわかるが、今までは何人来てどれだけの利益があったかという報告しかない。市民にとってプラスになっているの

かどうかわからない。私たちが、市と文化とお金、それから人。この流れが見えていないと落とし穴にはまると思う。

- これから取り組むべきアイデアということなので、やはりリサーチが必要。ちゃんとリサーチして、計画とか方針とか政策としてはこういうことが必要だと初めて言える。政策を立案できる環境というのは大事だと思う。
- データは欲しい。人数少ないから価値がないとは思わない。現状を説明されて、でも残すべきだときちんと言えることが大事。
- ◎ 次に（５）健康、医療、福祉分野等における文化芸術の活用

——事務局説明——

【委員】

- ここでロゲイニングを入れたらどうか。信州大学のインターバル速歩が有名だが、具体的に事象として松本から出ているのでいいと思う。それと温泉を入れて欲しい。
- 温泉の事例では松山が道後温泉で温泉アートというのをやっている。アートフェスであって健康面とは違うが。
- 温泉文化は日本独自の文化であり世界的にも売れる文化である。
- 健康は広すぎて難しい。健康寿命延伸都市というがそれは何なのか重要な面が落としこまれていない。
- 健康と文化は連ねるのが難しい。運動をしない不健康な人に文化人が多かったりする。そこを繋げるのが温泉や登山などかもしれない。
- 松川村は男性の長寿日本一になった。趣味を楽しむ人が多く村では趣味を推奨している。松本も資源はあるので生かしたらいいと思う。公民館講座でも行きたいものがあれば生かせる。
- 健康でないからといって文化的でないわけではない。健康だけが特筆するものではなく、心豊かに生きていくことが文化なので、文化と健康を無理して結びつける必要はない。文化をきちんと楽しめている人は長生きが多いとか温泉文化の中で心豊かにしましょうなど、緩やかに考えたい。
- 健康医療と芸術は密接に関わりあっている。すごくいいものを作る人は表裏一体で、むしろ健康じゃない。何か表現を突き詰めると普通の人とは違う領域に行ってしまう。アートセラピーなど松本は少ないが外国ではやっていて成功している。
最後の「文化芸術が、新たな創造力と発信力を生み」というところは、私たちが新たな創造力・発信力を持っていこうという当事者意識があるといい。松本に住む人がみんなそういう意識を持ってすれば社会的イノベーションも生まれる。それが創造都市であるという感じが良い。
- 人が人として生きるを最初に書いて、その前提のもとに新たな創造力、社会イノベーションを作りましょう、そうした中からより新しい魅力ある松本市を作っていこうと書くのはどうか。

- 「これらの取組みを総括する分野目標案」と書いてあるが、目標というのはいつまで
に何をするというものである。この文章の主語は何なのか。

【事務局】

- 今回テーマに取りあげているのが、文化芸術そのものの振興というよりも、他の領域
にも文化的な部分で何かできることがあるんじゃないかという発想。文化芸術を活用す
るというまとめ。文化芸術を盛んにすることでその町で新たなものが生まれいい面で飛
び火していくという形のものを目指している。

【委員】

- 主語は市民であるべき。市の文化についてもっと学んでいくとか、本当に文化振興策
をやるのであれば市民にちゃんと委ねること。市民ひとりひとりの意識を作らないとい
けない。最初のところで文化芸術は何かを市民が考えられるように。
- 病院に関わる立場としては、文化芸術の活用というのは病院に長期入院している人た
ち対象にやってもらうと非常に生かされると思う。音楽は高齢者の心のケアにもなる。
- 健康文化という側面からいくと健康寿命延伸都市の概念にも直結してくるが、人間が
生きていくうえで心豊かであることは必ずしも健康でなくてもいい。文化は人間が生き
ていく最大の条件なので、その辺を主体にして書いていくといい。
- 芸術文化を頭にもってくると、芸術に興味のない人が見たら冒頭で自分には関係ない
と思って読まない。よく考えなくてもわかりやすい文章にして多くの人に投げかける。
- 一番最初のところに、「私たちは文化芸術は人間が生きていくうえで豊かに生きていく
手段であると考えます。先に私たち委員会の方の合意として、文化芸術を今までのよう
な伝統文化というところから外れて、基本的には人間が豊かに生きていくための道具の
ひとつである。それがすべてではない」と入れた上で市民の側に投げかける。興味が持
てるような文章、あるいは全体が見えるように主旨のところをトップに置いて、私たち
は文化をこういうものと考えるということを最初に唱えてから全体に流すなど、方針を
市民の皆さんにわかるようにしたい。
- 創造都市自体を政策としてやっていくのはいいと思うのでそこを機軸にするのはいい。
共感される文章を。「目標」だと、いつまでに何をやると示さないと意味がないので「目
的」とする。主語が文化芸術になっているが市民に替えて、これから動いていく主体を
主語にするのは第一条件である。作るということはとてもいいと思う。今は消費すれば
生きていってしまうので、作るということに関わっているという意識を持てるのが大
事で、そこを表現できるといい。
文化芸術は豊かに生きるだけでなく、存在意義にも関わる。豊かに生きるよりもっ
と深い存在の承認意義に関わってくるので、その辺が入るといい。
- 今私たちは日本の現状を当たり前にも思っているけれど、ほとんど収入のない国の人た
ちも言語など文化を持っている。文化に対して私たちはあまりにも高いレベルで見たい
る。文化を特別なものと捉えてしまうところを考えなおした方がいい。

- もう少し敷居を下げるとしっくりくる言葉があると思う。ひと言でまとめなくてもいいので伝わる言葉にしたい。
- 伝えるのが文章の役目。文章は思いが込められないと伝わらない。事務局は大変だが、文化に対して敷居を低くし、案そのものも文化的なものとし、重要視するものとそうでないものを分ける。現状認識ができるデータを出してもらおう。以上お願いしたい。